

全国学力・学習状況調査結果について

1 実施概要について

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立
- ◇児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用

(2) 調査の対象及び内容 【実施日 平成30年4月17日(火)】

○対象 各小学校6年生及び各中学校3年生の全児童・生徒

全国 小学校 19,386校 中学校 9,597校

山形県 小学校等 242校 中学校等 100校

○調査内容

- ◇国語、算数・数学、理科の学力調査
- ◇児童・生徒の学習状況等に関する質問紙調査
- ◇学校に対する質問紙調査

2 調査結果

(1) 新庄市における各教科の平均正答率と全国との比較

A 主として知識に関する問題 B 主として活用に関する問題 理科のみA・Bの問題を一体的に出題

【小学校・義務教育学校前期課程】

国語A 全国 < 市 全国平均を上回った。

国語B 全国 < 市 全国平均を大きく上回った。

算数A 全国 < 市 全国平均を上回った。

算数B 全国 < 市 全国平均を上回った。

理科 全国 < 市 全国平均を上回った。

【中学校・義務教育学校後期課程】

国語A 市 < 全国 全国平均を下回った。

国語B 全国 < 市 全国平均を上回った。

数学A 市 < 全国 全国平均を下回った。

数学B 市 < 全国 全国平均を下回った。

理科 全国 < 市 全国平均を上回った。

小学校は、すべての教科で全国平均を上回った。中学校は、国語Bと理科が全国平均を上回り、国語Aと数学が全国平均を下回った。昨年度と比較すると、国語、算数・数学は、小・中学校ともに改善が見られる。理科についても3年前より改善され

ている。分布図は全国並であるが、比較的上位層が少なく、特に算数・数学においては中位、下位層が多くなっている。

改善された主な理由として、単元構成の工夫、課題の吟味、教材研究等、日常の授業改善で工夫をしてきたこと、探究型学習が市全体に広がってきたこと、学級差をなくして学年全体で取り組んでいること、一部の小学校で教科担任制を取り入れていることなどが挙げられる。今後も引き続き、授業改善への取り組みを続けていく必要がある。また、落ち込みやつまずきのある問題や県で作成しているスパイス問題の活用は今後もしていきたい。さらに、個に応じた指導、補充や活用力を高める指導、家庭との連携について、取り組みを充実させていきたい。

(1) 児童の質問紙の回答における全国と比較した本市の傾向

【小学校・義務教育学校前期課程】

- 自己肯定感、規範意識が高い。
- 地域行事への関心があり、参加をしている。また、地域の人と関わっている。
- 家の人（兄弟姉妹以外）と学校での出来事について話す。
- 授業では、自分で考え自分から取り組む。工夫して発表する。話し合いの活動をしている。
- 家庭学習で、授業の予習・復習をしている。
- ▲放課後や週末に家でテレビ、DVD、ゲーム、インターネットで過ごす児童が多い。
- ▲1日あたり、授業時間以外に2時間以上勉強している生徒が少ない。
- ▲新聞を週に1回読んでいます。

(2) 生徒の質問紙の回答における全国と比較した本市の傾向

【中学校・義務教育学校後期課程】

- 自己肯定感、規範意識が高い。
- 地域行事への関心があり、参加をしている。また、地域の人と関わっている。兄弟姉妹以外の家の人と話す。
- 授業では、自分で考え自分から取り組む。工夫して発表する。話し合いの活動をしている。
- 数学、理科の勉強を大切に役に立つと感じている。
- ▲放課後や週末に家でテレビ、DVD、ゲーム、インターネットで過ごす生徒が多い。
- ▲1日あたり、授業時間以外に2時間以上勉強している生徒が少ない。
- ▲数学の授業の内容が分かる、活用できるか考える、ノートに解き方や考え方を書くことができている生徒が少ない。

(3) 学校質問紙の回答における全国と比較した本市の傾向

【小学校・中学校・義務教育学校】

- 教科の目標設定や教育課程について小・中共通した取組みを行っている。
- 習得・活用及び探究の学習過程で授業改善をしている。
- 地域や社会の出来事を学習の題材として取り扱う。
- ▲教育課程について計画は立てているものの、各教科の相互関連やP D C Aサイクルの視点での学習活動が十分であるとはいえない。
- ▲全国学力・学習状況調査を教育活動改善のために活用はしているが、分析、教育指導の改善、指導計画への反映が十分でない。

児童質問紙

学校質問紙

【生活習慣】

- 7 朝食を毎日食べている
- 8 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- 9 毎日、同じくらいの時刻に起きている

【自己肯定感】

- 1 自分には、よいところがあると思う
- 3 将来の夢や目標をもっている
- 2 先生は、あなたのよいところを認めてくれている

【規範意識】

- 4 学校のきまりを守っている
- 5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 6 人の役に立つ人間になりたいと思う

【家族関係】

- 18 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか

【地域・社会】

- 20 今住んでいる地域の行事に参加している
- 21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- 22 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- 23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- 24 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったか、一緒に遊んだりすることがありますか
- 25 新聞を読んでいますか(週1回以上)
- 26 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか
- 19 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

【家庭学習】

- ▲ 14 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(2時間以上)
- 10 自分で計画を立てて勉強をしている
- 11 学校の宿題をしている
- 12 学校の授業の予習・復習をしている
- 13 予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している

【読書】

- 15 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(30分以上)

【学習活動全般】

- 55 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う
- 56 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う
- 57 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

【関心・意欲・態度 算数】

- 27 算数の勉強は好きだ
- 28 算数の勉強は大切だ
- 29 算数の授業の内容はよく分かる
- 30 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい
- 33 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 37 今回の算数の問題について、全ての書く問題で最後まで書こうと努力した

【学び方 算数】

- 31 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
- 32 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- 34 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考える
- 35 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
- 36 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

【関心・意欲・態度 理科】

- 38 理科の勉強は好きだ
- 39 理科の勉強は大切だ
- 40 理科の授業の内容はよく分かる
- 41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある
- 43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 44 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい
- 47 観察や実験を行うことは好きだ
- 51 今回の理科の問題について、全ての書く問題で最後まで書こうと努力した

【学び方 理科】

- 42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- 45 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- 46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか
- 48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
- 49 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えている
- 50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている

【カリキュラム・マネジメント】

- ▲ 16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している
- ▲ 17 教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している
- ▲ 18 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している
- ▲ 19 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

【小中連携】

- 21 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

【授業改善】

- 22 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした
- 26 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた
- 27 教科等の指導にあたって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った

【調査結果の活用】

- 31 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した
- ▲ 33 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査(山形県学力等調査)の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

国との比較で+3ポイント以上は●、-3~+3ポイントの項目は■、-3ポイント以下は▲で印をつけてください。

選択肢 1:当てはまる
のみの比較

児童質問紙

学校質問紙

【生活習慣】

- 7 朝食を毎日食べている
- 8 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- 9 毎日、同じくらいの時刻に起きている

【自己肯定感】

- 1 自分には、よいところがあると思う
- 3 将来の夢や目標をもっている
- 2 先生は、あなたのよいところを認めてくれている

【規範意識】

- 4 学校の規則を守っている
- 5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 6 人の役に立つ人間になりたいと思う

【家族関係】

- 18 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか

【地域・社会】

- 20 今住んでいる地域の行事に参加している
- 21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- 22 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- 23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- 24 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか
- 25 新聞を読んでいますか(週1回以上)
- 26 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか
- 19 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

【家庭学習】

- ▲ 14 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(2時間以上)
- 10 自分で計画を立てて勉強をしている
- 11 学校の宿題をしている
- 12 学校の授業の予習・復習をしている
- 13 予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している

【読書】

- 15 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(1時間以上)

【学習活動全般】

- 52 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う
- 53 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う
- 54 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

【関心・意欲・態度 数学】

- 27 数学の勉強は好きだ
- 28 数学の勉強は大切だ
- ▲ 29 数学の授業の内容はよく分かる
- 30 数学ができるようになりたい
- 33 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 37 今回の数学の問題について、全ての書く問題で最後まで書こうと努力した

【学び方 数学】

- 31 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
- 32 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- 34 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考える
- 35 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている
- 36 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

【関心・意欲・態度 理科】

- 38 理科の勉強は好きだ
- 39 理科の勉強は大切だ
- 40 理科の授業の内容はよく分かる
- 41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある
- 43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 44 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい
- 47 観察や実験を行うことは好きだ
- 51 今回の理科の問題について、全ての書く問題で最後まで書こうと努力した

【学び方 理科】

- 42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- 45 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- 46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか
- 48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
- 49 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している
- 50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている

【カリキュラム・マネジメント】

- ▲ 15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している
- ▲ 16 教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している
- 17 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している
- 18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

【小中連携】

- 20 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

【授業改善】

- 21 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした
- 25 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた
- 26 教科等の指導にあたって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った

【調査結果の活用】

- 30 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した
- ▲ 32 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査(山形県学力等調査)の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

県との比較で+3ポイント以上は ● 、-3~+3ポイントの項目は ■ 、-3ポイント以下は ▲ で印をつけてください。

選択肢 1:当てはまる
のみの比較

学校における働き方改革について

いじめ問題や不登校をはじめとする学校生活での困難さを抱える児童・生徒が増加し、これに加えて部活動などをはじめとする様々な業務が重なり、教職員の業務が複雑化・多様化するとともに多忙化し、勤務の長時間化が顕著となっている状況にある。

このようななかで、教職員一人ひとりが仕事と生活のバランスを取り元気な姿で子どもたちの前に立つことができる環境を整えることにより、子どもたちと向き合う時間を十分確保していくことで、子ども達一人ひとりへの寄り添った理解を図りながら学力や体力の向上と豊かな心を育てることができる環境づくりを進めていく必要がある。

1. これまでの取組み

学校教員の働き過ぎに係る「働き方改革」が29年頃から県において始まり、市教委としてこれに呼応するかたちでその実態把握と対応策を検討してきた。

一方で市教育委員会職員の全体研修会を実施することで、職員全体の理解と意識の共有化を図るとともに意見集約等を行ってきた。

(1) 今年度の動き

①部活動指導員事業（学校教育課）

県費対応で3名を配置。（新庄中、日新中、明倫中）

②スクールサポートスタッフ事業（学校教育課）

県費対応で1名を配置（日新小）

③学校支援地域本部事業（学校教育課）

国1/3、県1/3負担で11校に地域コーディネーター11名を配置。

④閉庁日の設定（8月13日～15日、8月24日）

⑤教育委員会内部における改革推進（3課）

教職員の業務の役割分担・適正化のための方策の検討。学校職員と教育委員会職員相互の意識改革など

2. 働き方改革推進の基本的視点

(1) 学校・教員が担う業務の適正化（業務の簡素化）

教員が担うべき業務の適正化、学校組織や教育活動の見直し、教員の事務負担の軽減対策など

(2) 学校運営の効率化と教育活動の質の向上（業務の効率化）

学校組織マネジメント力の向上と効果的な学校運営体制の強化、効率的な業務進行管理能力の向上、外部人材等の活用と専門的スタッフ等と連携したチーム体制による業務の推進など

(3) 勤務時間の管理徹底と教職員一人ひとりの意識改革の推進（業務改善の意識化）

管理職による教職員の勤務時間の管理徹底、教職員の業務改善意識の徹底、学校業

務の改善P D C Aサイクルの確立、保護者・地域住民等との認識の共有化など

3. 教育委員会での取組みの視点

(1) 人的配置の拡充

国・県への人的配置拡充の要望、業務サポート人員の配置、外部人材の配置と活用など

(2) 教職員の業務の簡素化・効率化に必要な環境整備の推進

校務支援システムの整備検討、I C T機器の整備と活用、I C T活用のサポート強化など

(3) 学校閉庁日の設定

夏季休業中と新庄まつり期間の閉庁日の設定、年末年始の閉庁日の設定など

(4) 教職員の業務負担軽減へ向けた事務事業の見直し

部活動のあり方の検討、教育委員会と学校の業務分担の見直し、教職員に負担軽減を図るための事務事業の見直し、メンタルヘルス対策の推進など

(5) 教職員と教育委員会職員の意識改革の推進

ワークライフ・バランスや健康管理への意識高揚、仕事優先の職場意識の改革、年次有給休暇等の取得促進など

4. 学校での取組みの視点

(1) 学校マネジメント力の向上

重点目標と経営方針の明確化、P D C Aサイクルでの学校経営、関係機関・地域・ボランティアとの連携強化、チームで対応できる組織づくりなど

(2) 勤務時間管理の徹底

教職員の勤務実態の適正把握、長時間時間外勤務者への指導強化など

(3) I C Tの活用による業務の効率化

I C Tの活用によるデータの共有化や校務の効率化、学校ホームページの活用など

(4) 教職員の業務負担軽減へ向けた学校用務の見直し

部活動運営の見直し、教職員の業務量把握と業務負担の平準化、学校行事や会議等の見直しなど

(5) 教職員と教育委員会職員の意識改革の推進

ワークライフ・バランスや健康管理への意識高揚、仕事優先の職場意識の改革、年次有給休暇等の取得促進、メンタルヘルスケアの推進など

(6) 教職員一人ひとりの取組み

意識改革の気持ち、お互いが働きやすい環境づくり、他教職員のサポート体制の充実など